

達人 Professional vol.28

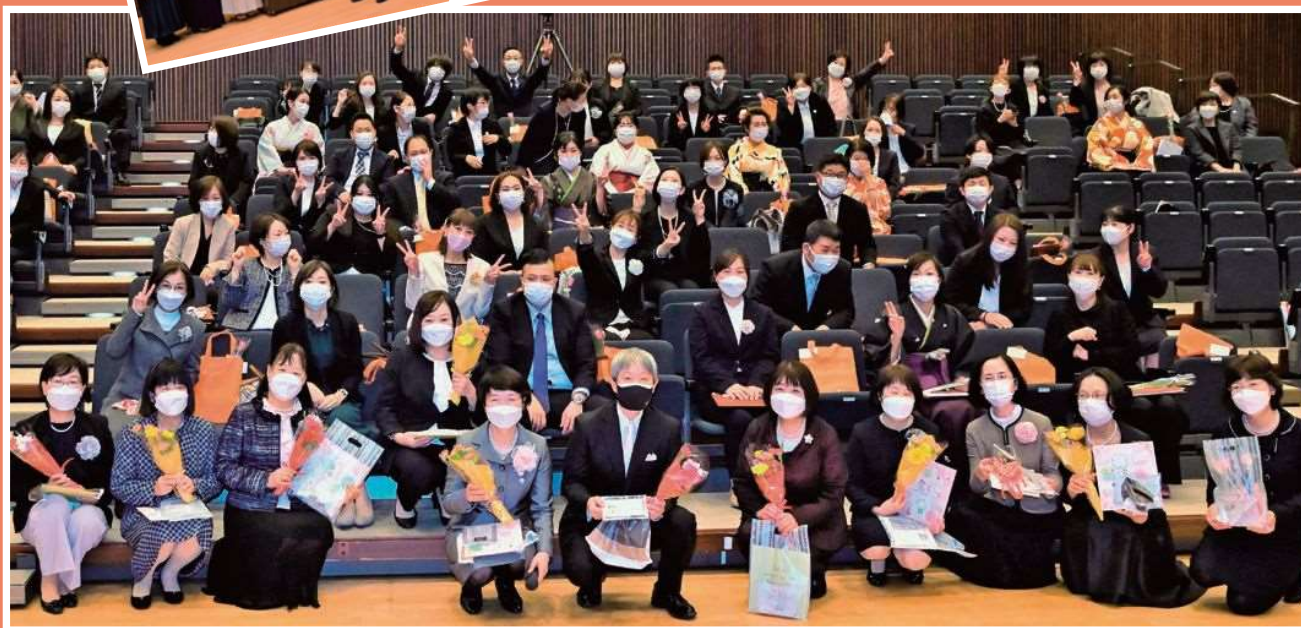
2022年4月

Contents

特集 **第3次中長期計画**
施設別マスタープラン・施設長抱負
NEW 診療科別マスタープラン
2022年度新規事業/ 慈愛会NEWS
第73期新卒新入職員紹介
慈愛会の達人たち-蝶観察の達人-
慈愛会フィロソフィ/ リレーエッセー
人事情報



* 最後の修了式 * 2022.3.9



鹿児島中央看護専門学校 2年課程(通信制) **16年の歴史に幕** 2006.04-2022.03

記事は P20 へ

公益財団法人慈愛会
第3次中長期5カ年計画
(マスタープラン)
2022年4月～2027年3月

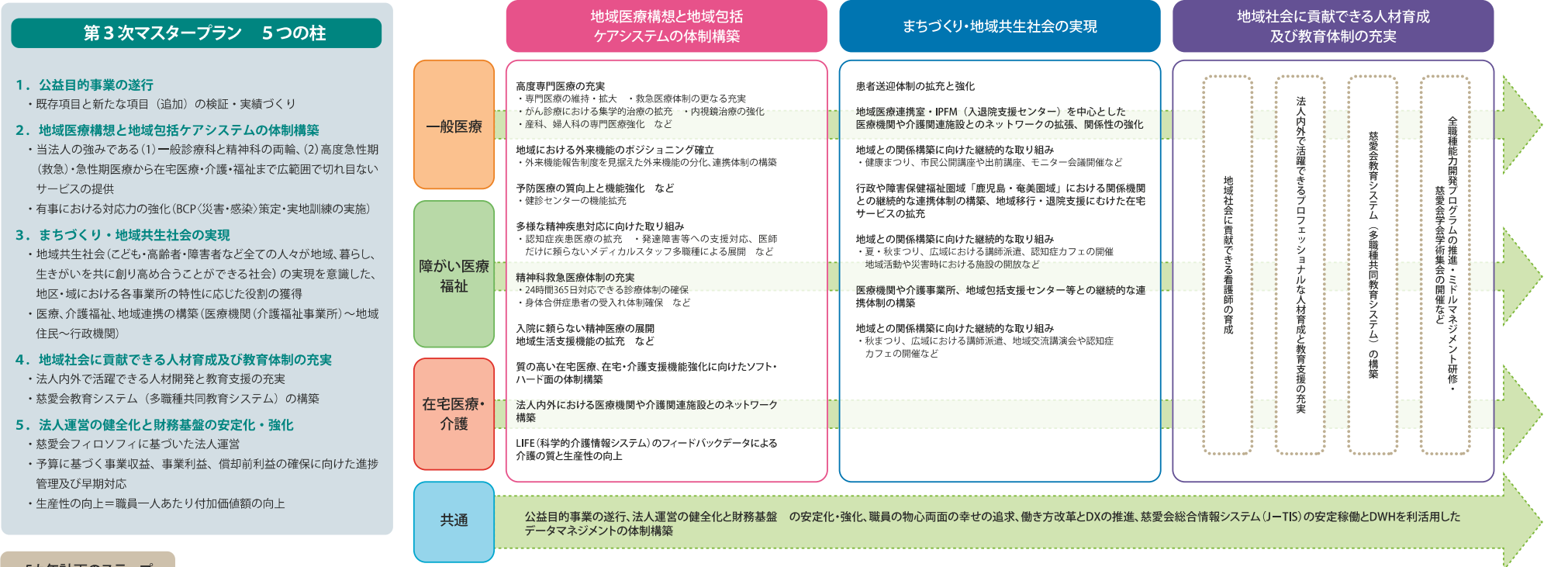
テーマ

基本方針

進化・深化
Evolution Deepening

第3次マスタープランが令和4年度から5カ年計画で始まります。第3次マスタープランの目標を、第2次マスタープランの最中に始まりましたが、当法人は、前もって準備していたBCPを試行錯誤しながら活用・実践する中で、現場レベル、幹部レベル、法人レベルの全レベルで適切に対応することが出来ました。これは、第2次マスタープランで「統合」を掲げ各事業所が運営を行っていたことが、今回の新型コロナ禍への対応の準備になっていたこと、さらに、この不測の事態を経験することで想定以上に「統合」が進み結果になったと総括できます。第3次マスタープランでは、「統合」を進めさらなる「進化」を図るとともに、一方で、サービス提供の場である現場の「一人一人のスタッフ、一人一人のご利用者（患者）」にまで目の届く組織づくりを目指す「深化」を図ることを目標とします。さらなるサービスの質を向上させるためには、一方で、慈愛会スタッフの「物心両面の幸せ」がなければ果たすことが出来ません。進化と深化、一見、全く方向性の違うベクトルを同時に満たすことを目指していきます。

理事長 今村 英仁



5カ年計画のステップ		診療報酬改定		診療報酬・介護保険報酬同時改定		診療報酬改定		
区分	期間	stage 1 令和 4 (2022) 年度	stage 2 令和 5 (2023) 年度	stage 3 令和 6 (2024) 年度	stage 4 令和 7 (2025) 年度	stage 5 令和 8 (2026) 年度		
全体ステップ		地域共生社会の実現を目指す地域包括ケアシステムにおける役割の確立						
地域医療構想と地域包括 ケアシステムの体制構築	一般	・ 外来機能報告を見据えた外来機能の分化、連携体制の構築 ・ 第 8 次医療計画「5 疾病 6 事業及び在宅医療」強化、地域ニーズに応じた新サービスメニューの開発 ・ 予防医療の質向上と機能強化 ・ メディカルスタッフ			を見据えた高度専門医療 ・ 専門医療の機能協働によるチーム医療の積極的推進 など			・ 各診療科における中長期計画の再検証と専門医療の再強化 ・ 病棟、多職種間の連携強化を目的とした総合診療医の配置 ・ 専門医療、在宅・生活支援まで可能な総合診療体制の確立 など
	障がい	・ 多様な精神疾患対応に向けた取り組み ・ 精神科救急医療体制の継続 ・ 認知症疾患医療の拡充 ・ 入院に頼る拡充 ・ 精神科病床の編成検討 ・ メディカルスタッフ協働によるチーム医療の積極的推進 ・ 災害発生、感染			らない精神医療の展開 ・ 地域生活支援機能症流行時の対応力強化			・ 3 精神科病院（谷山・奄美・徳之島）における病床編成の再検討
	在宅・介護	・ 質の高い在宅医療、在宅・介護支援機能強化に向けたソフト・ハード面の体制構築 ・ 法人内外に			における医療機関や介護関連施設とのネットワーク構築 ・ LIFE（科学的介護情報システム）のフィードバックデータによる介護の質と生産性の向上			
まちづくり・地域共生 社会の実現	一般	・ 患者送迎体制の拡充と強化 ・ 地域医療連携室・IPFM（入退院支援センター）を			中心とした医療機関や介護関連施設とのネットワークの拡張、関係性の強化 ・ 地域との関係構築に向けた継続的な取り組み			
	障がい	・ 行政や障害保健福祉圏域「鹿児島・奄美圏域」における関係機関との継続的			な連携体制の構築、地域移行・退院支援にむけた在宅サービスの拡充、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み			
	在宅・介護	・ 医療機関や介護事業所、地域包括支援セン			ター等との継続的な連携体制の構築、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み			
地域社会に貢献できる人材 育成及び教育体制の充実	共通	・ 法人内外で活躍できるプロフェッショナルな人材開発と教育支援の充実 ・ 慈愛会教育シ			テム（多職種共同教育システム）の構築 ・ 全職種能力開発プログラムの推進、ミドルマネジメント研修、慈愛会学会学術集会の開催など			
共通方針		公益目的事業の遂行、職員の物心両面の幸せの追求、法人運営の健全化と財務基盤の安定化・			強化、働き方改革とDXの推進、慈愛会総合情報システム（J-TIS）の安定稼働とDWHを活用したデータマネジメントの体制構築			

「人」一人一人に目を向ける

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁



新型コロナ禍も3年目を迎えた令和4年度は、いよいよ post コロナ /with コロナを見据えた1年になると考えます。まず、令和4年度の事業計画書の巻頭言を掲載します。

—— 令和4年度の公益財団法人慈愛会の事業方針 ——

新型コロナ禍は当初の予想をはるかに超えて3年目を迎えた。慈愛会スタッフはその間の不測の事態に対して、現場レベルで、幹部レベルで、法人レベルの全てのレベルで試行錯誤を繰り返しながらも非常に適切な対応を行ってきた。その結果、この2年間で慈愛会スタッフは著しい成長を遂げると同時に法人としても格段の飛躍を遂げることが出来た。

令和4年度は、筋肉質に強化されつつある当法人の地固めを目指すとともに、一方で、「一人一人のスタッフ、一人一人のご利用者（患者）を大事にする」組織づくりを目指していかなければならない。未知のウイルスである新型コロナに対して医療者がこれだけ献身的に従事してきたのは使命感からに他ならない。ただし、使命感だけで今後も同様なサービスを提供するのは不可能である。法人として献身的に前線で戦うスタッフに対して燃え尽きないで仕事を継続してもらえるにはどのようなサポートをすれば良いかが試される1年となる。

令和4年度を、引き続き「有事に遭遇してもびくともしない法人」を目指すと同時に、当法人の理念である「慈愛会スタッフの物心両面の幸せを目指す」ことの両立を図る1年とする。

令和3年度は「有事に遭遇してもびくともしない組織づくり」を掲げ、「慈愛のサービスを一人でも多くの顧客に届ける」（＝顧客を増やす！）ことを目指しました。今年度はさらに「人」に目を向けることを追加しました。また、今年度から当法人の第3次中長期計画が始まります。こちらは、第2次中長期計画の「統合」を引き継ぎ「進化・深化」としました。法人内の連携が進んではきましたが、現場レベルになるとまだまだ足りない部分が多々あります。また、組織づくりと診療の充実と質向上は両輪であり、医療サービスそのものをレベルアップさせることは不可欠です。第3次計画では、事業所ごと、医療スタッフ部門ごとに加えて、診療部門ごとの5カ年計画を立ててもらい掲載しました。

今年度から力を入れる「人」については、慈愛会スタッフとご利用者（患者さん）双方に目を向ける必要があります。医療の世界でも働き方改革が求められ、一方で、年功序列型の給与体系から、同一労働同一賃金を含むジョブ型給与体系への移行も必須となります。この制度改革に対応するためには、2,000名を超える慈愛会スタッフの一人一人のキャリアアップを支援し向上させることが、このジョブ型制度との両輪として必須となります。

ご利用者（患者さん）の診療に関しては、新型コロナ禍で生活支援までサービスを提供できることが求められてきています。そのためには、お一人お一人のご利用者（患者さん）のプロフィールを大事にデータベース化して、サービスに応じて情報共有することが必須となります。いずれも一朝一夕に出来ることではありませんが今年度からしっかりと取り組んでいきます。

今村総合病院

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 高度専門医療への取り組み

※ P14～診療科マスタープランに詳報

- (1) 専門医療の維持・拡大在宅生活を見据えた専門医療の提供
- (2) 救急医療の更なる充実
- (3) がん診療における集学的治療の拡充
- (4) 内視鏡治療の強化
- (5) 産科、婦人科の専門医療強化

2. 地域における外来機能のポジショニング確率

- (1) 外来機能報告制度に沿った運用検討
 - ① 紹介・逆紹介率向上
 - ② 外来から入院、手術のスムーズな受け入れ方法の検討
 - ③ 目指す外来機能に合わせた予約システムの検討
 - ④ 待ち時間短縮への取り組み
 - ⑤ 電話予約の在り方検討による患者サービスの向上と業務改善の推進
- (2) 地域の医療機関・介護福祉施設との連携強化
- (3) DX推進による業務改善

3. チーム医療の積極的推進

- (1) 法人内・院内の連携体制強化
 - ① 病棟・多職種間の連携強化を目的とした総合診療医（包括診療医）の配置検討
 - ② いづろ今村病院との連携強化
- (2) チーム医療の充実
 - ① MET チームの活動推進
 - ② NST チームの体制強化
 - ③ 緩和ケアチームの更なる充実
 - ④ 臨床倫理コンサルテーションチームの活動強化
 - ⑤ 認知症ケアチーム及びリエゾンチームの活動推進
- (3) 業務フロー作成による業務の可視化と効率化推進

4. 災害時における対応力強化

- (1) BCPも含めた災害時における対応力の強化
- (2) 感染症の流行に備えた診療体制強化

5. 健全経営の追求

(1) 地域医療連携の推進

- ① 患者情報の共有化（ネットワーク化）による地域医療連携の更なる推進
- ② 診療科毎の他医療機関との地域ネットワーク作り
- (2) 総合入院体制加算2の取得
- (3) 病院運営費の適正化の持続
- (4) DXの積極的推進と生産性の向上
 - ① クリニカルパスのバリエーション分析によるパス改善のシステム構築
 - ② DXの利活用による業務改善・患者サービスの向上
 - ③ ITの活用を含む職員間のコミュニケーションツールの検討
 - ④ DXの推進によるペーパーレス化の推進
- (5) 医師の働き方改革への対応
 - ① 医師事務作業補助者の教育研修体制構築
 - ② 医師の労働環境における運用面のルール作り
 - ③ 研修等による医師の働き方改革に沿った医師の意識変容を図る
 - ④ 診療支援部や特定看護師への医師業務のタスクシフト推進
- (6) 広報力の強化によるブランディングの確立
- (7) 患者サービスの向上に向けた取り組み
 - ① 送迎体制の拡充と強化
 - ② ネットを含む予約の利便性向上
 - ③ 他医療機関からの問い合わせに随時対応可能な体制の整備

6. 地域の人材育成支援

- (1) 教育部門の統合と体制強化
- (2) 初期研修医、専攻医にとって魅力のある研修体制の整備
- (3) 特定看護師・認定看護師の積極的養成

7. 隣接・併設施設の整備と拡充

- (1) 水産会館跡地の有効利用による病院機能の補完と拡充
- (2) 保育所拡大による子ども・子育て支援の更なる充実

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

「天長地久」

有事に遭遇してもびくともしない組織を目指して

院長 帆北 修一



2022 年の今村総合病院の言葉として「天長地久：天は長く地は久し」（老子）を選びました。天と地が永久に存在するように、物事がいつまでも変わらないこと、また永遠の存在であることという意味です。

世の中の変化もそうですが、医療関係の環境変化のスピードはますます速くなっております。当院では、現状の課題を明確にし、時代の変化に対してスピード感を以て的確に対応することで「有事に遭遇してもびくともしない組織」を目指します。

これまでの中長期計画でのいづろ今村病院との「統合」を継続し、今後は一人一人の患者さんを慈愛会全体でシームレスに支えるための連携をより強固なものにします。同時に、高度専門医療の強化、新たな医療提供の開発に取り組み、病院機能の「進化・深化」を図ります。

感染症を含む大規模自然災害時にも影響されない BCP（事業継続計画）を確立しシミュレーションを行うことで、患者さん・職員・地域の皆さんの安全確保に努めます。また、働き方改革や DX（デジタル・トランスフォーメーション）を進め、生産性向上を目指しつつ、全職員が働きやすく活躍できるように明るく楽しい職場環境を確保し、満足度の向上を図ります。

2022 年が新型コロナウイルス感染症が少しでもコントロールでき、健康で明るく生活が出来るように祈念しております。地域の皆様の健康をしっかりと支えることができるように職員一同頑張っております。

いづろ今村病院

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 在宅療養支援病院として役割の確立と機能拡充

(1) 在宅生活を見据えた専門医療の提供

専門医療の維持・拡大

※ P14 ～診療科マスタープランに詳報

入退院支援機能の強化

新規事業の検討と展開

透析部門の創設、ロービジョン外来の開設、訪問型レントゲン撮影、ほか

(2) 病病、病診連携等の推進

今村総合病院との相互連携・一体化の促進

地域連携活動の継続

画像連携（カルナコネクト推進）、地ケア病棟活用（フレイル・サルコペニア、等）による診療所支援

(3) 病院機能として、かかりつけ医機能の拡充

在宅療養支援病院としての機能強化

（地ケア病棟入院料1の維持と機能強化型へ移行）

専門外への相談支援、他院へ紹介・逆紹介など連携による信頼性のある支援

(4) 地域の病院として、地域の健康や介護予防への貢献

地域住民協働による健康教室等の支援継続

地域介護予防事業の参画継続（疾病予防・栄養・運動支援）

(5) 在宅医療・介護支援機能の強化

在宅診療部門の創設

地域連携・訪問診療・訪問看護・訪問リハ

居宅介護支援専門員の増員による在宅高齢者支援強化

2. 病院機能の再編成と機能強化

(1) 効率的な病院機能・運用（人・物・金・情報の見直し）

一般、及び地域包括ケア病棟の病床編成の検討

外来機能集約、院外事業の拠点整備、感染症対策

データマネジメントの再構築

専門性の向上に向けた資格取得推進

(2) 予防医療の質向上と機能強化

人間ドック健診施設機能評価 Ver.3.0 の更新

健診センターの機能及び移転拡大に向けた取り組み

特定保健指導の充実（多職種協働）

(3) その他

病院機能評価機構認定施設 Ver.1.1 の更新

医師の働き方改革への取り組み（2024年4月以降）

ICT化（DX）推進、働きやすい職場風土の醸成

オンライン診療への対応

BCP（災害・感染）の策定と実地訓練

▶ 2022年度事業計画 取り組み方針・抱負

「当院の存在する目的」を常に自覚するように

院長 常盤 光弘



2022年度から当院の院長を拝命いたしました。当院は今年度で創立88年を迎えます。他の医療機関と同様に、国や自治体の人口構成変化や必要とされる医療・看護のニーズに合わせて、また国の医療政策の変遷に合わせて自院なりの改革を進めてきた歴史があります。改革を止めることは許されずこれからも継続していかなくてはなりません。

今回策定された第3次マスタープランは詳細に作りこまれた当院の中期目標設定です。目標への到達を目指すことは大切ですが、我々は更にその先にあるもの「当院の存在する目的」を常に自覚しておく必要があります。一般医療に関しては、治療により治癒・軽快した患者を家族の待つ自宅あるいは紹介元施設にお返しすること、緩和医療に関しては不治の病を持つ患者のQOLとQODを支えること、健診センターに関しては県民の健康の保持によって健康寿命を延伸すること、単純ですがこれらが「当院の存在する目的」だと考えています。これらの目的（使命）を全うするために目標があります。目標に到達するためにはプランにも記載されている通りに人・物・金・情報が欠かせません。特に人に関しては健全運営をしていく中で最も重要であり、人（職員）の教育は「目的」に匹敵する我々の使命に他なりません。

新型コロナウイルス感染症の収束も見通せないなか病院の運営に関しましては職員の皆様から頂ける多くの意見が欠かせません。我々皆で大いに考え、議論し、協働して「目的」を果たしていきたいと考えています。

谷山病院

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 病院外来・入院分野

（1）多様な精神疾患への対応

- ① 認知症疾患医療の拡充
- ② 身体合併症精神疾患患者の受入体制の確保
- ③ 発達障害等への対応

（2）精神科救急医療体制の継続

- ① 24時間365日対応できる診療体制の確保
- ② 急性期治療の在宅率目標の達成
- ③ 地域拠点病院の役割継続

（3）効率的な病棟運営

- ① 入院患者構成等に基づく病棟等の運営

2. 地域生活支援分野

（1）相談支援事業所の拡充

- ① 法人内他施設等との連携強化

（2）就労支援事業所の拡充

- ① 就労定着事業の強化
- ② 関連部署との連携強化

（3）リハビリテーション、デイ・ケアの拡充

- ① プログラム・アクティビティの拡充
- ② 関連部署との連携強化

3. 災害発生・感染症流行時の対応力強化

（1）災害発生時におけるBCPを含めた対応力強化

- ① 定期的な全体訓練実施とBCP等のブラッシュアップ
- ② 必要物資の適切な備蓄

（2）感染症流行時の対応力強化

- ① 様々なパターンを想定した定期的なシミュレーションとBCP等のブラッシュアップ

4. 人材の育成

（1）グループ内職員の育成

- ① 認定看護師・相談支援専門員・ジョブコーチ等の育成
- ② 日常の研究活動に基づく慈愛会学会学術集会等への積極的な参画

（2）地域の人材育成支援

- ① 研修医・各種実習生等の受け入れ

▶ 2022年度事業計画 取り組み方針・抱負

地域の中で役割を果たす谷山病院

院長 福迫 剛

谷山病院の第3次マスタープランの計画方針は、多様な精神疾患への対応と地域共生社会への参画です。精神科救急を通して多様な精神疾患に対応することで、地域包括ケアシステムの中で病院としての役割を果たしていきます。また、就労支援や相談支援などを通して、地域共生社会の実現に貢献します。

2022年度は、具体的には、①精神科救急の地域拠点病院として役割を果たし、②結核（今年度も、COVID-19）を含む身体合併症への対応を行い、③認知症への対応は認知症疾患医療センターを中心に各方面と連携して行い、④長期入院者の地域移行・地域定着を併設施設（ひだまり、ステップ、しらゆりの郷）や訪問看護ステーションなどと連携して行い、⑤精神障害者の身体合併症に対しては、今村総合病院などの一般病院と連携して医療を提供します。⑥児童思春期の精神疾患に対しては、メディカルスタッフを中心に対応する体制を整えていきます。対応できない疾患あるいは対応が不十分な疾患に関しては、他の病院や施設などと連携を取り患者さんが地域の中で生活できるよう支援を行います。その他、人材育成を継続して行い、災害対応も怠りなく準備していきます。

個人的には、直腸がんも術後6年を経過し、再発なく働けていることに感謝し、これまで通り精神科医療に貢献したいと思っています。

奄美病院

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 精神科版地域包括ケアシステムの充実

(1) 24時間365日対応可能な診療体制の維持

- ①保健所・警察・自治体、一般他科との連携強化
- ②医師等の確保及びオンラインによる対応の検討

(2) 長期入院患者の退院に向けた支援

- ①5年超の長期入院患者の計画的な退院促進（5%）
- ②病棟、グループ在宅部門、他事業所との連携強化

(3) 認知症疾患医療センターの継続

- ①奄美群島各自治体 初期集中支援チームへの関わり
- ②認知症カフェの再開等による啓発活動の実施

2. 在宅部門の充実

(1) デイケアの充実

- ①利用者の高齢化に対応したハード・ソフトの充実
- ②休床病床有効活用と効率的な運営の為に本館への移設検討

(2) 訪問看護ステーションの充実・拡大

- ①人材投入と「寿」システムの有効活用による体制強化
- ②喜界島・奄美北部・南部での展開、サテライトステーションの検討

(3) 就労継続支援事業所の充実

- ①差別化と新規サービス・事業の見直しによる利用者の拡大
- ②少子高齢化による人材不足を補完する一般就労へ向けた取り組み

(4) グループホームの充実

- ①長期入院患者の退院先としての役割継続
- ②入居者の高齢化に対応した移設・新築等の検討

(5) 相談支援事業所の充実

- ①効率的な人員配置による生産性向上
- ②他障害も対象とした新規開拓

3. 地域社会との積極的関わり

(1) 地域の人材育成支援

- ①研修医、各種実習の積極的受け入れ
- ②タスクシフトを可能にする認定看護師等の育成
- ③奨学金等の活用による現地採用拡大に向けた取り組み

(2) 地域貢献活動の充実

- ①各種会議への専門職の積極派遣・当院スタッフによる出前研修の実施
- ②地域行事への積極参加と独自イベントの開催（夏祭り・クリスマス会・講演会等）
- ③地元町内会等との連携強化（防災・減災・街作り支援）
- ④無料低額診療の継続及び無料健康相談の継続と内容充実

(3) 子ども子育て支援の継続

- ①企業主導型保育施設の維持及び充実（改築・移転の検討）
- ②発達障害、児童思春期、虐待問題への対応

4. 健全経営と業務改善による生産性向上

(1) オーダリングシステムや各種システムの有効活用による生産性向上

- ①医療情報室との連携強化
- ②オンライン診療、音声入力システム、電子カルテの導入検討
- ③ITに精通した人材の育成と確保

(2) 適正なタイミングでの病床再編

- ①人口動態、診療報酬改定や施策変更に対応できる体制づくり
- ②地域医療体制に対応できる体制づくり

(3) 業務改善による生産性向上

- ①5S活動の推進と院内決裁の在り方の再検討（ハンコ廃止含む）
- ②完全調理済み食品の導入検討

▶ 2022年度事業計画 取り組み方針・抱負

利用者本位の生活を念頭に地域貢献を果たす

名誉院長 杉本 東一



「With コロナ」の長いトンネルの中、2022年度を迎えることとなりました。皆様も緊張の糸を張りつぱなしで、本当にご苦勞の絶えない毎日をおすごしのことと存じます。

さて、慈愛会は、第3次中長期5カ年計画（マスタープラン）を掲げ、新年度のスタートを切っております。

私たち奄美病院グループも2025年問題や共生社会を見据え、引き続き、長期入院患者の退院促進を図り、また患者・利用者が地域で安心して生活できるよう、上記の計画を掲げ、日々取り組んでいるところです。

特に少子高齢化のスピードの早い奄美は、計画の4番目にあります「生産性の向上」は、喫緊の課題です。利用者も職員も少なくなる中、良質の医療、サービスを提供できるよう、IT化、それに併せ業務改善も進めているところです。しかしながら、生産性の向上や効率性の追求は、利用者様の利益や職員の幸福を忘れてしまいがちです。利用者本位の生活を念頭に考え、スタッフの物心両面の幸福を追求しながら地域医療に貢献してまいります。

3月には地元の県立大島高等学校が選抜甲子園出場を果たし、奄美でも「やればできる」ことを体現してくれました。わたしたちも奄美の皆様にご喜んでもいただけるよう地道に努力を重ねてまいります。本年度も宜しくお願いいたします。

徳之島病院

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 南三島一帯への良質な精神科医療と看護の提供

(1) 診療担当医の継続的な確保と離島巡回診療及び相談の継続

- ① 沖永良部島担当 院内常勤医師
- ② 与論島担当 非常勤医師

(2) 多職種による離島訪問看護体制の確保と拡充

- ① 離島訪問看護委員会設立による情報共有と教育
- ② 多職種連携による訪問看護回数の増加

(3) 入退院をスムーズに行える体制の構築

- ① 地域の医療機関との連携強化による相互受け入れ態勢の構築及び効率的なベッドコントロール
- ② 退院後の総合的支援体制づくり（デイケア・訪問看護）

(4) 専門職による講演会の実施と患者家族に必要な情報の提供

- ① 職員の講師派遣活動
- ② 退院前訪問や退院支援委員会における患者家族への情報提供

2. 病棟再編成による機能分化と外来部門の充実

(1) 1病棟の精神一般病棟から認知症病棟への転換

- ① 医療・介護・福祉の関係機関との情報共有と連携強化
- ② 将来を見据えたキャッシュフローのシミュレーション（収益・コストの影響）
- ③ 認知症患者の受け入れ態勢の構築

(2) 看護職員配置の再編による外来部門の強化

- ① 必要人員の確保（外来・訪問看護師）

(3) 外来及び診療支援部の支援体制の強化及び診療体制の整備

- ① 人員配置の見直し（ローテーションの取り入れ）
- ② 診療日ごとの患者数のばらつきをなくし待ち時間短縮の取り組みを実施

3. 地域移行支援の継続と地域定着支援の活性化

(1) 長期入院患者の退院に向けて行政を含めた地域定着部会の継続

- ① 精神障害部門での中心的な役割を担う職員配置の継続
- (2) 就労継続支援B型事業所「あしたば」の開設
- (3) デイケア「あおぞら」の拡充
 - ① デイケア／ショートケアの送迎を増やし件数アップを図る
- (4) 地域の施設との連携を行い、患者が望む形での生活支援を実施
 - ① 医療福祉相談室を中心とした地域施設との情報共有

4. 地域貢献と開かれた病院づくり

- (1) 秋祭りなど地域住民参加型でのイベント開催
- (2) 地域のイベントへの参加
- (3) 災害時の病院施設開放の周知
- (4) 地域住民への講演会や専門職による指導の実施

5. 将来を見据えた人材確保と育成

(1) プロフェッショナルな人材育成と支援

- ① スタッフのキャリアプランに応じた教育支援
- ② 専門スキル習得に向けた働きかけと学習支援
- (2) 地域の学校訪問活動と職場体験の受け入れ
 - ① 専門職による高校への就職説明会の実施
- (3) インターンシップ受け入れ
 - ① 作業療法士及び管理栄養士等の受入れ継続
- (4) 法人内の協力を得て人事交流を活用、業務改善を推進

▶ 2022年度事業計画 取り組み方針・抱負

2022年度に向けて

院長 末満 純一



皆さんこんにちは、亜熱帯の島（徳之島）から抱負をお届けします。この島でも皆さんの所と同じように昨年に引き続きコロナに悩まされました。その影響を受け「入院から地域へ」を掲げて、患者さん・家族に好評だった沖永良部島、与論島への巡回診療や訪問看護を中止せざるを得ないこともありました。この南三島の精神科医療を担う私達としまして非常に歯痒い思いでした。来年度は、このうっ憤が晴らせるように一層力を入れていきたいと思っています。

また内にあつては、離島の人口減少と相まって入院患者さんも減少し、同時に高齢化も進んでいます。当然のこと患者さんたちを支えるスタッフもギリギリの状態です。そこで少数精鋭の「プロフェッショナル」が求められます。離島というハンデに負けず、スキルアップの援助が出来ればと思っています。

そんな中、現在3つの病棟でやっていますが、これではスタッフの負担が重過ぎます。そこで2つの病棟に縮小し、将来的には認知症治療病棟への転換も視野に考えています。また病床縮小に伴い、その受け皿としての「就労継続支援作業所」の開設と「デイケア」の拡充、外来部門の強化が望まれます。今こそ一丸となって頑張ろう!!

愛と結の街グループ

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 施設サービス（入所）機能の充実・強化

- (1) 医療ニーズの高い施設入所者への対応強化
(慈愛会内施設との連携強化)

① 急変時の対応

(今村総合病院・谷山病院・高麗町 CL・オハナ CL))

② 慈愛会グループ各病院からの柔軟な入所調整・受け入れの強化

(2) 在宅支援の強化

(退所前後訪問指導、訪問リハビリ等)

2. 選ばれる通所サービス（通所リハ・通所介護）の仕組み作り

- (1) 「強み」を出せる通所サービスの構築・提供（機能強化・サービスメニューの刷新・送迎の効率化）

- (2) 利用者の安定確保のための継続的営業活動（顔の見える関係構築）

※市内病院、クリニック、居宅支援事業所・地域包括支援センター等に向けて

3. 地域に頼られる居宅（在宅・訪問）サービスの提供体制の構築

- (1) 慈愛会グループ、地域の病院・施設との連携強化による利用者確保（訪問介護）

- (2) 訪問給食・ふれあい会食の継続

4. 地域との関わりの強化

- (1) 地域イベントへの積極参加

- (2) 町内会コミュニティとのつながり強化（定期懇談会・セミナー・講演活動）

- (3) BCP（業務継続計画）に基づく地域住民と協調しての災害対策の実施

5. DX（デジタルトランスフォーメーション）化による業務効率アップ・職場環境改善の仕組みづくり

- (1) LIFE（科学的介護情報システム）のフィードバックデータの有効活用（アウトカム重視）

- (2) IT環境を利用し、在宅で介護相談をはじめとした面談・面会が出来る仕組みづくり

- (3) 職場におけるアナログデータのデジタル化（デジタルゼーション）の推進

6. 地域を支える人材の育成

- (1) 認定看護師、特定行為看護師、認定看護管理者、実習指導者、介護キャリア段位保有者等プロフェッショナル人材の継続的な育成

- (2) 新入職員に寄り添い指導・相談的役割を担うプリセプター・メンターの育成

- (3) 自ら考え自立して行動できるリーダーの育成（管理者任用候補者）

- (4) 経営的視点を意識し、経営資源（ヒト・モノ・カネ）を活用し成果を出せる管理者の育成

7. 生産性の向上

- (1) 労働生産性の向上に向けたソフト・ハードの見直し

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

谷山地区における「超強化型老健」としての存在意義を示したい（その5）

施設長 野村 秀洋



昨年度もコロナ災禍の中で、更なるオミクロン株6波の感染予防に振り回された1年でした。

今年度は第3次マスタープラン「人生100歳時代」「2040年問題」を見据えた地域とともに歩む事が出来る組織の確立を計画方針として掲げました。

初年度の重点戦略テーマとしては、

1. 施設サービス（入所）機能の充実・強化

- (1) 医療ニーズの高い施設入所者への対応強化（慈愛会内施設との連携強化）、

- (2) 在宅支援の強化（退所前後訪問指導、訪問リハビリ等）

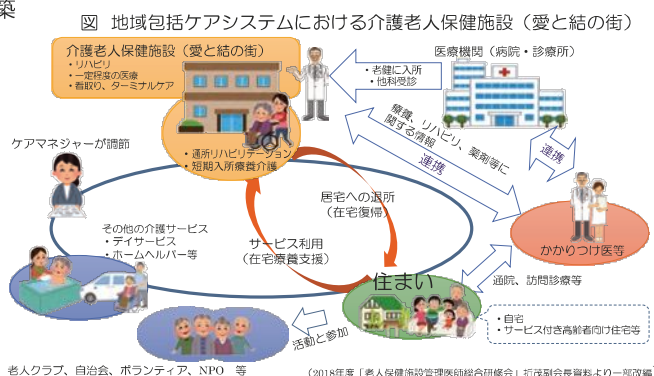
2. 選ばれる通所サービス（入所（通所リハ・通所介護）の仕組み作り

3. 地域に頼られる居宅（在宅・訪問）サービスの提供体制の構築

以上3つの最重点テーマを中心に取り組みます。そして事務部においては、LIFE（科学的介護情報システム）の有効活用の取り組みが第一と考えます。

我々は、老健を中心に愛結グループ（居宅介護支援センター・ヘルパーステーション・デイサービスセンター・グループホームなど）の多職種協働の下、谷山地区を中心とした「地域包括ケアシステム」の拠点を目指して、地域活動に貢献しています。

「超強化型老健」としての「在宅復帰と生活支援」の機能を強化に職員一丸となって取り組み、人生100年時代の生活支援の場として地域の皆様方にご利用いただければと願っています。



鹿児島中央看護専門学校

▶ 第3次マスタープラン 重点戦略テーマと取組項目（戦術）

1. 社会から求められる看護実践力の高い看護師の育成

(1) 教育の充実（新カリキュラム運用、評価）

- ① 8つのディプロマポリシー到達に向けた教育課程の実施
- ② 授業評価の取組
- ③ 卒業生の実践力評価

(2) 学生が主体的・能動的に学ぶ教育活動の推進

- ① ポートフォリオ、ルーブリック評価、アクティブラーニングによる主体的学習活動
- ② 看護技術習得の強化
- ③ シミュレーション教育の実践

(3) 実習施設との連携強化

- ① 臨地実習の充実（臨床判断能力強化）、新たな臨地実習の工夫
- ② 実習の場における IPE の体制構築
- ③ 臨床現場と協働するシミュレーション教育、OSCE の実践

2. 社会のニーズ、看護基礎教育の動向に対応した学習環境の整備、学生の支援体制の強化

(1) 質の高い学生の確保

- ① 学生確保活動（オープンキャンパスの工夫、ホームページ紹介、高校訪問の継続）
- ② 看護への関心を開く（中学・高校への出前授業）

(2) 放送大学で学ぶ学生の支援（学士資格取得者を増やす）

- ① 在学中の支援
- ② 卒業後の支援体制充実

(3) 学生支援

- ① 奨学金制度等の充実
- ② 国家試験対策、進路支援
- ③ 学生の心理的支援の体制強化（休学者・退学者を減らす）

(4) ICT推進

- ① 学生のICT推進（電子テキスト活用推進、Teams 活用）
- ② 職員のICT推進（会議の運用、学籍管理、オンライン授業）
- ③ ペーパーレス推進

(5) 教育の質の向上

- ① 教員の継続教育システムの構築とリーダー育成（教員養成課程の受講、専任教員継続研修、教務主任養成課程、リーダー研修）
- ② 専任教員ラダーの積極的運用と支援及び看護研究の継続
- ③ 慈愛会看護部とのユニフィケーション推進

(6) 学校教育自己点検、学校関係者による評価の継続、公表

3. 学校の存在価値を高め、地域に必要とされる学校運営の推進

(1) 今村総合病院と協働し、学校移転に備える

- ① 2022.1 ～ ：検討委員会発足
- ② 2024 ～ 2025：新築工事
- ③ 2026.4 ：新校舎移転

(2) 地域に根ざした貢献活動

- ① 災害時の避難所としての提供
- ② 学生及び教職員の地域ボランティア推奨
- ③ 学生と地域住民との交流
- ④ 卒業生支援（サポートキャンパス）
- ⑤ 看護教員の職能団体への講師派遣
- ⑥ 看護教員養成課程からの教育実習受け入れ
- ⑦ 地域の看護基礎教育に携わる看護職のキャリアアップセミナーの開催

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

新カリキュラムが開始されます

～時代の変化に対応できる看護実践力の高い
看護人材の育成に向けて～

副校長 久徳 美鈴



第3次マスタープランには、より進化・深化した魅力ある学校づくりを進めるため3つの重点目標を掲げました。1点目は「社会から求められる看護実践力の高い看護師の育成に努める」、2点目は「これからの看護基礎教育の動向に対応した学習環境を整え、学生への支援体制の充実を図る」、3点目は「学校の存在価値を高め、地域に必要とされる学校運営を推進する」ことです。本校の強みは、慈愛会各施設の資源を教育に活用できることです。最大の事業である臨床と教育を融合できる学校の移転を目指していきます。

いよいよ4月からは新しい教育課程の運用が始まります。将来を担う看護職には、これまで以上に高い能力が求められ、役割発揮に一層の期待がなされています。地域全体を見る視点、チーム医療の視点、在宅看護、フィジカルアセスメントの強化が必要不可欠であり、本校では、59年の歴史の中で繋がれてきた「奨学と慈愛」の理念を大事にして教育課程を編成しました。時代の変化に対応できる看護実践力の高い看護人材の育成に力を注いでいきます。新しい教育課程が本校の存在価値を高めるものになるように、今後も皆さまのご支援を頂きながら丁寧に教育活動を実践していきたいと考えています。

高麗町クリニック

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

安定した運営の維持・継続

院長 斧淵 泰裕

2009（平成 21）年 11 月に開院し、12 年目となる 2021 年 9 月に院長交代いたしました。前任の下本地院長が築かれた体制を維持しつつ、慈愛会グループにあって在宅診療の充実を図って参ります。当施設は、医師 1 人 看護師 2 人（4 月より、増員）、理学療法士 2 人、医療連携 1 人、医療事務 2 人、事務責任者 1 人で構成されます。およそ 100 名前後の在宅訪問診療と 30 名前後の訪問リハビリテーションを実施しています。対象者の約半数が、有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・グループホームの入居者になります。自宅で介護されている方は減る傾向にあり、新規施設入居者の取り込みがサービス提供者増に繋がります。1 カ月の診療報酬高は、700～800 万円ほどです。事業収益、事業費用ともに平均的な黒字経営のクリニックに準じます。第 3 次マスタープランの重点テーマに掲げた人材確保と育成に取り組み安定した運営を維持・継続していきます。



慈愛会クリニック

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

職域を超えた対応力の強化

院長 今村 尚子

2022 年度の目標患者数は、外来患者延べ人数 900 人、糖尿病患者数 810 人と前年度の目標とほぼ同数です。今年度もコロナウイルスの流行が受診者数に影響を与えると思われます。受診に不安があり、受診控えをしがちな患者に対して「正しい感染予防」と「治療中断により病状が悪化するリスク」などの知識を提供できるよう努めていきます。今年度は施設内の職員構成も変わるため、担当業務も変化します。限られた人員で、これまでと同等のサービスを提供するには事務・看護師・栄養士の垣根を超えた対応力が必要になります（もちろん職権をこえない範囲です）。

糖尿病専門外来クリニックとして職員一人一人の対応力を強化し、患者様の心に届く医療サービスを提供できるよう努めます。



七波クリニック

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

新年度へ向けて

院長 鮫島 久子

当院は診察前に栄養士を含め看護師による問診、療養指導、症例によっては足観察や簡易処置を行い、医師診察の流れで診察を行っています。CDE が 2 名で、医師の体制は常勤 1 名、非常勤 5 名ですべて糖尿病専門医です。新型コロナウイルス感染症の影響は続き、対面での栄養指導や、検査、ドックを受ける方が減っています。今年はせめて合併症に関する検査を勧めていきたいところです。かかりつけ患者さんへの新型コロナワクチン接種をおこないましたが、待合室整備や接種場所の設営などで勉強会や教育の時間がとられ、患者さんへの指導、フィードバックが以前より十分できていないと感じており、この 1 年は基本を振り返る一年としていきたいと思っています。



かごしまオハナクリニック

▶ 2022 年度事業計画 取り組み方針・抱負

オール慈愛会による在宅支援の先駆けとなる

院長 林 恒存

かかりつけ外来と訪問診療を開始して 2 年半、特に訪問診療需要の増加は顕著です。安心した在宅療養支援には、マンパワーと役割分担が不可欠です。また在宅療養の質の担保には多職種での情報共有と、在宅・緩和医療に精通するスタッフの持続的な育成が必要です。「進化と深化」を掲げる慈愛会が、今後総力を結集した在宅支援体制を構築するために、オハナがその先駆けとなって以下の実践を通じて多くの人材が行き交い、集う場にしていきたいと考えております。

- ・ 不要な業務削減、生産性向上を目的とした ICT の導入・活用
- ・ 無理なく持続可能な業務体制づくりと、事業規模とニーズに見合った人材の拡充
- ・ スタッフのための勉強会、カンファレンスの通年実施
- ・ 地域医療研修での初期研修医の教育、また特定看護師の現場実践の場の提供
- ・ 在宅スタッフ育成を目的とした法人内医師、看護師による訪問診療機会の提供



診療部門 マスタープラン

慈愛会第3次マスタープランにおいて、診療部門のマスタープランが初めて策定されました。診療科ごとの中長期方針、重点戦略テーマ・取り組み事項を一挙掲載します。取り組み事項については、時期を特記する項目を除き、5カ年（2022年4月から2027年3月まで）での達成を目指します。今回の診療部門に続き、次号では、看護部ほか機能別各部門のマスタープランを掲載予定です。

血液内科〈いづろ今村病院・今村総合病院〉

慈愛会の血液内科としてそれぞれの専門性を高めるとともに、両院の連携を深めていく。

【いづろ今村病院】

主に3疾患（MDS、白血病、リンパ腫）への専門医療の提供と高齢血液疾患患者に対して在宅生活を見据えた医療・ケアの提供体制を構築する。

【今村総合病院】

全国有数の移植センターとして積み上げた高い専門性及び実績を積極的に地域へ発信することで、当院血液内科のポジショニング確立と医療従事者の育成に努める。

いづろ今村病院

1. 専門医療の維持拡大

(1) 3疾患（MDS、白血病、リンパ腫）の専門的な診療の維持拡大

2. 専門性の高い血液疾患治療に加え在宅生活を見据えた治療とケア

(1) 高齢血液疾患患者への在宅を見据えた治療とケアの提供

3. 内部連携の強化・推進

(1) 今村総合病院との連携体制の維持
(2) 院内他科との柔軟な連携の推進

今村総合病院

1. 専門医療の維持拡大

(1) 全国有数の移植センターとしての位置づけ確保
(2) 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定病院の取得
(3) CAR-T 導入可能な病院への体制づくり
(4) 造血器疾患の専門的・先進的治療（新規薬剤の積極的導入）の維持拡大
(5) ATL 診療の充実
(6) 臨床治験・臨床研究・公的研究班への積極的参加

2. 教育機関としての維持・向上

(1) 研修医・専門医の教育・育成
(2) 医療従事者の教育・育成・確保
(3) 講演会等を通じた地域・地域医師への啓発活動

3. ブランドの構築

(1) 論文・学会発表等を通じた全国への情報発信
(2) ATL 診療の充実維持

4. 血液診療ネットワークの維持

(1) 血液 WEB カンファレンス（年3～4回）などを通じた症例報告等の相互学習
(2) 県下・県外の病院との臨床治験・研究などを通じた患者の紹介・逆紹介を通じた関係性の維持

5. 内部連携の強化・推進

(1) いづろ今村病院との連携体制の維持
(2) 院内他科との柔軟な連携の推進
(3) 血液疾患の感染症管理対策の充実化と稼働率の維持

消化器外科〈いづろ今村病院・今村総合病院〉

慈愛会の消化器外科として、両院の連携を深めていく。消化器がんに対する集学的治療を更に充実させることで、地域におけるポジショニングの確立を図っていく。

消化器内科と連携し、消化器病センターとしての診療科連携体制の強化を図る。

1. 消化管がんに対する集学的治療を充実・発展させる

(1) 消化器がん手術件数の増加を図る
(2) 外科手術へのロボット手術の導入を準備する：目標年度 2023 年度

2. 消化器病センターとしての体制強化

(1) 消化器内科との連携を深め、消化器病センターとしての更なる体制強化を図る

3. 鹿児島における腹部救急医療の中核となることを目指す

(1) 現状以上の腹部救急対応にはマンパワーが不可欠であり、更なる手術件数増加のためにも大学への増員交渉を行っていく

消化器内科〈いづろ今村病院・今村総合病院〉

慈愛会の消化器内科としてそれぞれの専門性を高めるとともに、両院の連携を深めていく。

【いづろ今村病院】

今後増加する高齢者に対し「慢性疾患の患者を最後まで見る病院」として消化器内科の立場から高齢者の消化器慢性疾患全般に対応していく。

今村総合病院と連携を取りつつ、在宅療養支援病院として急性期治療後の在宅への移行をサポートする。具体的には、経鼻内視鏡や同日大腸ポリプ切除など患者負担の少ない検査治療を導入する。

【今村総合病院】

消化器がんの早期発見を中心に、幅広く消化器系のがん治療を提供する。

いづろ今村病院

1. 専門医療の維持拡大、高齢者消化器慢性疾患への対応

(1) コールドポリペクトミーの導入
(2) 軽～中等の炎症性腸疾患増悪時の生物学的製剤治療の導入と拡充
(3) 高齢者胆管炎、胆管がんへの ERCP の導入：2023 年度～
(4) 消化器系手術不能がん患者への消化管金属ステント治療の導入：2024 年度～
(5) 検査日の大腸ポリプ切除数増大：2024 年度～

2. 消化器系検診の安全安心な検査の実施

(1) 上部消化管内視鏡負担軽減に向けた経鼻内視鏡の導入と拡大

3. 内部連携の強化・推進

(1) 今村総合病院との連携体制の維持
(2) 院内他科との柔軟な連携の推進

今村総合病院

1. 消化器がんの早期発見（特に膵臓がん）

(1) 健診でのう胞・主膵管拡張を指摘された患者を継続してフォローする（1年に1度は必ず超音波内視鏡を行う）

2. 早期食道がん・胃がん・大腸がんに対する ESD 数を増やす

(1) 大学専門医師と連携し、当科での切除実績を上げる

3. がん化学療法（特に胆道がん・膵がん）の件数を増やす

(1) 他院に紹介せず、当科で対応する（生検・化学療法・緩和含め）

循環器内科〈いづろ今村病院・今村総合病院〉

慈愛会の循環器内科としてそれぞれの専門性を高めるとともに、両院の連携を深めていく。

【いづろ今村病院】

高齢者心不全パネミックを見据えた急性期医療から在宅・終末期医療提供に向けた体制整備を行い、地域におけるポジショニングを確立する。

【今村総合病院】

院内他診療科や他職種との連携を推進すると共に、地域の医療機関との関係構築に努める（鹿児島医療圏のみならず、垂水市も含めて検討する）。

地域での循環器疾患分野に関する健康維持に向けた奉仕活動を行うことで地域住民の健康を支える一翼を担っていく。

いづろ今村病院

1. 専門医療の維持拡大

(1) リンパドレナージ外来・入院体制の確立
(2) 循環器疾患専門訪問診療の維持・拡大

2. 高齢者心不全終末期ニーズへの対応

- (1) 高齢者心不全終末期増大による受け皿に対する体制の整備

3. 内部連携の強化・推進

- (1) 今村総合病院との連携体制の維持
- (2) 院内他科との柔軟な連携の推進

今村総合病院

1. 迅速な院内連携推進 (ER 及び各専門診療科)

- (1) ER 及び各診療科に対する循環器疾患面のサポートの充実

2. 循環器疾患における病病連携及び病診連携の構築

- (1) 地域の医療機関と顔の見える関係の構築（侵襲的治療を行う高次医療施設との連携を特に強化）

3. 自院完結型心不全診療体制の構築

- (1) 高次医療機関における医療享受が困難な超高齢心不全患者に対しての薬物療法を主体とした心不全治療を行う体制構築（多職種連携の推進を図る）

4. 心臓リハビリテーション体制構築

- (1) リハビリテーション科との連携をより一層強化し、心臓リハビリテーションを発展させていく。

5. 地域での循環器疾患分野に関する健康維持に向けた奉仕活動

- (1) 奉仕的啓発活動を通じ、地域住民との顔の見える関係や信頼関係を構築することで、緊急疾患たる循環器疾患における自施設への信頼感を獲得し、受診増加と、円滑かつ的確なマネジメントへとつなげていく。

眼科〈いづろ今村病院・今村総合病院〉

慈愛会の眼科として専門性の維持・拡大に努めると共に、法人内施設や他診療科との連携を深めていく。

いづろ今村病院糖尿病センターや今村総合病院の精神科・血液内科との連携を強化し、より良い診療・手術体制の構築を図っていく。

近隣地域の医療機関との連携を深め、集患に取り組んでいく。
垂水市を中心とした大隅地区の眼科との連携も強化していく。

いづろ今村病院

1. 眼科専門医療の維持・拡大

- (1) 糖尿病性網膜症を始めとする糖尿病関連疾患治療の維持・拡大

2. 地域医療機関との連携拡大

- (1) 連携先診療所等への紹介・逆紹介の推進

3. 内部連携の強化・推進

- (1) 今村総合病院眼科との連携体制の維持

今村総合病院

1. 専門性の維持・拡大

- (1) 全身麻酔手術（精神疾患患者・重症網膜剥離）への対応

2. 専門性の維持・拡大

- (1) 腎疾患（透析患者への対応）・血液疾患患者の眼疾患治療

3. 他科との連携

- (1) 精神科・血液内科等の疾患患者で眼科単独では治療できない患者の治療

4. 地域医療機関との連携強化

- (1) 鴨池・荒田地区の眼科との連携（市立病院・鴨池眼科・坂元眼科・川畑眼科）
- (2) 垂水フェリー乗り場からの近さを生かし、垂水市を中心とした大隅地区の眼科との連携強化

5. いづろ今村病院との連携・役割分担

- (1) いづろ今村病院糖尿病センターとの連携・疾患別患者分担・急性期・慢性期患者診療

腎臓内科〈今村総合病院〉

専門医療の確立として腎臓内科認定施設、透析認定施設を維持すると共に、透析業務の効率化を積極的に進めていく。

また、将来への対応として腎臓専門看護師の育成にも取り組んでいく。

1. 透析業務の効率化

- (1) 透析室を紙カルテから電子カルテシステムに変更し、透析業務の効率化を図る。

2. 専門医療の確立

- (1) 腎臓内科認定施設、透析認定施設を維持し、専門医研修施設としての役割を果たす。

3. 他科との連携強化

- (1) 他科入院の血液浄化を必要とする患者の受け入れが潤滑に行えるよう連携の推進を行う

4. 腎臓専門看護師の育成

- (1) 現在週 1 回腎代替療法指導管理料のとれる選択外来を実施しているが、今後加算がとれるであろうリハビリへの対応も含めて腎臓病療養指導士の育成を図る
- (2) 上記理由により、慢性腎臓病療養指導看護師の育成を図る
- (3) 上記理由により、腎臓リハビリテーション指導士の育成を図る

泌尿器科〈今村総合病院〉

ダヴィンチや小線源治療装置の導入に向けて、ハード面・ソフト面での体制整備を図る。

泌尿器疾患における手術件数増加や尿路結石治療の更なる充実を図っていく。

1. ダヴィンチの導入

- (1) 手術室を含むハード面の整備：2022 年度
- (2) 医師を含む人員体制確保と教育体制の整備：2022 年度

2. 小線源治療の開始

- (1) 小線源治療開始に向けての準備と運用面の整備：2022 年度
- (2) 小線源治療装置導入に際し、地域の先生方への周知を行う：2022-2023 年度

3. 泌尿器疾患に関する手術体制の確保

- (1) 泌尿器疾患における手術件数の増加に向けての人員体制確保

4. 尿路結石治療の更なる充実

- (1) 体外衝撃波結石破碎術の件数増加
- (2) 経皮的腎尿管碎石術の件数増加

脳神経内科〈今村総合病院〉

脳卒中救急受け入れ施設として、脳神経外科と協力しながら 365 日 24 時間の受け入れ体制を維持する。

専門医療の確立として、PSC（一次脳卒中センター）、tPA 投与施設、血栓回収可能施設としての機能を維持していく。

また、いづろ今村病院との連携を図り、当院医師による脳ドック診療を実施する。

1. 脳卒中救急受け入れ施設として現在の入院数を維持する

- (1) 脳神経外科と協力し、脳卒中当直（SCU 当直）体制を通じて 24 時間の救急受け入れ体制を維持する

2. PSC（一次脳卒中センター）、t PA 投与施設、血栓回収可能施設であること

- (1) 施設認定に必要な症例登録件数を継続する
- (2) 血管内治療医の育成を図る
- (3) 脳卒中専門医の育成を図る

3. 若手医師・研修医・看護師教育に注力し、エキスパートを育成する

- (1) 専門医による講義や学会参加・発表を促していく

4. いづろ今村病院との連携

- (1) 当院脳神経内科・脳神経外科の常勤医により、いづろ今村病院で脳ドック診療を行う

脳神経外科〈今村総合病院〉

急性期の脳卒中受け入れ機関として、患者を断らない体制を継続する。

脳神経内科を含む院内連携体制と共に、大学病院との協力体制を継続する。

また、教育機関として初期研修医等の教育・育成に努める。

1. 急性期脳卒中、頭部外傷に対する救急医療の維持

- (1) 断らない救急医療体制を継続

2. 脳神経内科との連携維持

- (1) 外科治療を要する脳血管障害を当科で引き続き担当、内科的治療に関しては脳神経内科へ依頼する相互サポート体制を継続

3. 脳卒中予防外科治療の向上

- (1) 直達手術、血管内治療の適切な使い分けで、症例数増加・治療成績

向上を図る
(2)紹介元への情報提供、逆紹介を通じ、当院での医療体制の周知を図る

4. 大学病院との連携維持

(1)疾患に応じて、引き続き大学病院との協力体制を継続

5. 教育機関としての向上

(1)初期研修医等の教育・育成に努める

救急・総合内科〈今村総合病院〉

慈愛会の救急・総合内科として、いづろ今村病院の総合診療科との連携を深めていく。

内科専攻医の増員を図り、入院患者数の増加や地方病院との積極的なローテーションを図る。

専門医療の拡充を図るため、呼吸器科医による診療や感染症の専門外来立ち上げなどを検討していく。

1. 内科専攻医数増にて入院患者数を増やす・臨床研究を行う

(1)放射線科の入院管理を当科で行う
(2)専攻医にて臨床研究を行う

2. 呼吸器専門医の確保

(1)呼吸器科医による診療を開始する

3. 感染症の専門外来立ち上げ

(1)HIV 患者への対応を検討する
(2)渡航外来などの設置を検討する

4. 膠原病科医師数増加に伴う膠原病科の拡充

(1)リウマチ科を標榜する
(2)リウマチ科の宣伝を行う

5. 内科専攻医による地方病院とのローテーション

(1)内科専攻医の増員を図る
(2)地方病院との連携を行い、外来・入院管理を行う

6. 救急医に参加してもらい、非重症外傷診療を開始

(1)非重症外傷診療を開始する
(2)大学救急部との連携を図る

リハビリテーション科〈今村総合病院〉

慈愛会のリハビリテーション科として専門性を高めるとともに、いづろ今村病院との連携を深めていく。

今まで同様、脳卒中の患者を中心に診ていくが、そのほかの疾患の受け入れも柔軟に対応していく。

積極的な後進育成や地域へのリハビリテーション医療の発信を行うことで、地域貢献に努めていく。

また、積極的にリハビリ医療の最新情報を収集することで、将来に向けての対策を随時検討していく。

1. 専門治療の維持・拡大

(1)脳卒中の患者を中心に受け入れるが、骨折や脊髄損傷、切断そのほかの疾患も柔軟に受け入れる
(2)嚥下障害、痙攣、高次脳機能障害、装具作成など評価法の精度を上げるとともに、適切な提案・指導ができる体制をつくる
(3)先進的な治療法が開発された時には積極的に導入していく

2. リハビリテーション科専門医育成

(1)多職種連携の実習（鹿児島大学2年）を受け入れる
(2)リハビリテーション科学外臨床実習（鹿児島大学5年生）を受け入れる
(3)初期研修医やリハビリテーション科専攻医を受け入れる

3. 院内・院外連携の推進

(1)鹿児島市立病院の脳卒中カンファレンスへ参加する
(2)院内脳卒中センターの回診へ参加する
(3)地域の急性期病院へ当院の治療実績の提示などを行う

4. 地域社会への啓蒙・貢献

(1)SNS などによるリハビリテーション医療の発信を行う
(2)医師会活動などを通じた研修会を行う

5. 将来に向けての情報収集

(1)医療の進歩に伴いリハビリ医療の在り方が変化する可能性があり、必要な情報を確保する
(2)医療分野のみでなく工学的な発展も今後考えられるので、高齢者や障害者に応用できるものがないか情報収集に努める

整形外科〈今村総合病院〉

整形外科疾患による慢性的な痛みの治療や運動・生活指導を行いながら、スポーツによる障害と外傷の治療並びにその予防の指導を継続して行っていく。

また、スポーツ活動の普及や支援も積極的に実施する。
スポーツ整形のリハビリスタッフとの連携を強化し、リハビリの質向上に努める。

1. 地域スポーツへの貢献

(1)各種スポーツ教室の開催

2. スポーツ団体への啓蒙

(1)スポーツ団体への現場での指導

3. 若手医師の育成

(1)若手医師を対象とした研究会等の開催

麻酔科・ペインクリニック内科〈今村総合病院〉

手術室増室やダヴィンチ手術導入へ対応できる医師体制を確保する。

麻酔科医の業務負担軽減を図るため、ICT の活用も検討していく。

1. 手術室増室への対応

(1)麻酔科医増員に向けての HP 充実
(2)麻酔科医増員に向けての医師会報への求人情報掲載
(3)研修医の安定的な受け入れ体制整備

2. ダヴィンチ手術への対応

(1)麻酔科医増員に向けての HP 充実
(2)麻酔科医増員に向けての医師会報への求人情報掲載
(3)研修医の安定的な受け入れ体制整備

3. 麻酔科医の業務負担軽減

(1)ICT 等を活用した業務負担軽減

皮膚科〈今村総合病院〉

慈愛会の皮膚科として、いづろ今村病院皮膚科との連携を深めていく。

専門診療の維持・拡大を図ると共に、法人内・院内連携を強化することで幅広い疾患に対応できる診療体制を構築する。

また、医療上のニーズがあるにもかかわらず保険適用外の疾患に対し、自由診療を含めた多種多様な治療体制を整備する。

1. 専門診療の維持・拡大

(1)皮膚疾患専門診療の維持・強化（皮膚腫瘍、リンパ腫、乾癬、水疱症、皮膚血管炎、アトピー性皮膚炎など）
(2)日帰り外来手術体制の強化
(3)皮膚疾患入院体制の維持・拡大
(4)在宅患者への皮膚科訪問診療体制の維持・拡大

2. 院内連携の強化、推進

(1)リウマチ科との連携の更なる推進による、膠原病、乾癬性関節炎等の診療拡大
(2)放射線科との連携の更なる推進による、皮膚悪性腫瘍に対する化学放射線療法体制の強化
(3)血液内科との連携による皮膚リンパ腫診療体制の維持
(4)総合内科、眼科等との連携による重症薬疹等の診療体制の維持・強化（重症薬疹連携拠点病院の体制維持）
(5)いづろ今村病院皮膚科との連携強化による、急性期から維持期までのシームレスな入院治療体制の構築
(6)法人内各施設との連携強化による、皮膚科訪問診療の拡大

3. 医療上のニーズがあるにもかかわらず保険適用がない部分への自由診療による対応

(1)レーザー治療装置、LED 治療器等の導入による、術後や妊娠後の瘢痕、がん患者の化学療法に伴う脱毛、通常の保険診療で効果不十分など瘡等に対する治療体制の整備
(2)毛巣洞等、多毛が原因となる疾患に対する脱毛治療の体制整備

放射線科〈今村総合病院〉

慈愛会の放射線科として、いづろ今村病院放射線科との連携を強化する。

画像診断で地域医療に貢献する。
がん治療の一翼として放射線治療の増加を図っていく。

救急医療への支援として、IVRの365日24時間オンコール体制を継続していく。

1. 画像診断で地域医療に貢献するため、的確 / 簡潔 / 迅速な報告書を作成する

- (1) CT/MRIの画像診断件数は、年間24,000件を目指す
- (2) 画像診断の2重チェックの徹底を図る
- (3) 画像診断における翌診療日までの返書返しを徹底する

2. 放射線治療でがん治療の一翼を担う

- (1) 放射線治療は、年間4,000件を目指す
- (2) 病診連携の強化と各診療科との連携強化を図る

3. IVR・高度専門技術で救急医療の一翼を担う

- (1) 365日24時間オンコール体制を継続していく

4. 永久的に継続可能な診療体制の確立、スタッフ育成を行う

- (1) 症例カンファレンスを徹底・充実する
- (2) 放射線診断 / 治療専門医の確保を計画的に行う

精神科〈今村総合病院〉

当院精神科では、精神科単科病院では対応困難な精神疾患・身体疾患合併症例を引き続き受け入れていく。

今以上に夜間・休日の受け入れ体制を強化することで、地域医療に貢献していく。

1. 夜間・休日受け入れ体制の強化

- (1) 医師・看護師の増員の検討
- (2) 医師・看護師の勤務体制の見直し

2. 外来の部分的稼働

- (1) 精神科の専任看護師確保を図る
- (2) 精神科外来でのRI検査の受け入れを行う

産科・婦人科〈今村総合病院〉

慈愛会の産科・婦人科として、いづろ今村病院婦人科との連携を深めていく。

分娩数の増加を図るため、院内精神科と連携し、精神疾患を合併・既往した妊婦を受け入れていく。

垂水市との医療提携を締結し、大隅地区の妊婦獲得につなげる。
また、鹿児島大学婦人科腫瘍グループとの連携や法人内連携を強化し、患者数の増加を図る。

1. 分娩数の増加

- (1) 精神疾患合併・既往妊婦の分娩数を増やす
- (2) 垂水市との医療提携を締結し、大隅地区の妊婦獲得につなげる

2. 手術数の増加

- (1) 腹腔鏡手術、腔式手術件数の増加
- (2) 鹿児島大学に手術応援を依頼し、今まで当院で行えなかった手術を実施していく

3. 化学療法患者数の増加

- (1) 鹿児島大学婦人科腫瘍グループとの連携強化を図る

4. 放射線治療患者数の増加

- (1) 鹿児島大学婦人科腫瘍グループとの連携強化を図る

5. 法人内・院内連携の強化・推進

- (1) 他科との柔軟な院内連携の推進
- (2) 慈愛会関連施設からの紹介数の増加を目指した広報活動

小児科〈今村総合病院〉

小児内分泌専門外来の更なる充実を図る。
日本内分泌学会（小児科）の専門医の育成に関わる。

1. 小児内分泌専門外来の充実

- (1) 低身長・尿糖陽性者・生活習慣病・新生児マススクリーニング陽性者の精査医療機関としての診療を継続する
- (2) 上記において、学校での成長曲線普及をすすめる

2. 日本内分泌学会（小児科）専門医育成

- (1) 2021年4月から日本内分泌学会（小児科）教育施設に認定された。今後専門医育成を行う

病理診断科〈今村総合病院〉

病理診断科としての専門性向上を図るため、HTLV-1感染細胞を可視化できるHBZ-ISH法を実施できる体制を整備する。

地域の医療機関との連携を強化・拡大し、院外からの病理診断コンサルテーションを開始していく。

また、当院病理診断科で蓄積したデータの発表サポートなど、院外へ積極的に発信していくことで地域の医療機関からの患者紹介の増加へ寄与する。

1. 当院病理診断科の専門性の向上

- (1) 増床・増科がなければ、検体数の増加は見込めないため、専門性の向上を目指す
- (2) 研究費でのHTLV-1感染細胞の可視化が可能なHBZ-ISH法の関連機材の購入

2. 当院病理診断科の専門性の向上・拡大

- (1) 新人技師の雇用・育成を図る
- (2) HBZ-ISHの手技を確立し、院内症例への対応を開始する

3. 専門性の向上・拡大による他科への貢献

- (1) 細胞診検査士の育成を図り、高い技術と知識で組織・細胞診両方に対応可能な技師数を増やし、仕事の効率化を促進する
- (2) HBZ-ISHの必要な院内症例への対応を開始する

4. 地域医療機関との連携

- (1) 院外からの依頼受託に備え、免疫染色に対応可能な技師の育成と人数増加を図る
- (2) 遺伝子検査に対応可能な技師数を増やし、HBZ-ISHの院外症例への依頼対応を開始する

5. 地域医療機関との連携拡大による地域貢献・紹介率向上への寄与

- (1) 院外からの悪性リンパ腫を含めた病理診断コンサルテーションの開始
- (2) 蓄積したデータの発表サポート、当院病理診断科で可能な特殊検査の知名度を上げることで、院外からの紹介数の増加に寄与する

歯科口腔外科〈今村総合病院〉

地域の歯科医師との病診連携の推進を図る。
多職種連携による口腔ケアチームの活動を活発にし、患者の健康に寄与する。

1. 病診連携の推進

- (1) 地域の歯科医師との密接な連携と役割に応じた医療分担により、患者様により良い医療を提供する

2. 口腔ケア活動の充実

- (1) 多職種連携による口腔ケア活動を行い、口腔ケアを通じて患者の健康に寄与する

糖尿病内科〈いづろ今村病院〉

糖尿病診療の専門性の向上と他病院・診療所との糖尿病診療ネットワークの維持・拡大を目指す。

糖尿病診療に携わる医師等の教育機関としての維持・発展を目指す。

高齢な糖尿病患者に対する在宅生活を見据えた診療及びケアの提供を目指す。

1. 糖尿病専門性の維持・向上

- (1) 急性期から慢性期にかけた専門医療の提供
- (2) 患者教育体制の維持

2. 教育機関としての維持・向上

- (1) 研修医、専門医の教育・育成
- (2) 医療従事者の教育・育成
- (3) 講演会等を通じた地域への啓発活動

3. 糖尿病診療ネットワークの維持・拡大

- (1) 既存連携先クリニック等と顔の見える関係性を構築
- (2) 新規連携先の拡大として、紹介・逆紹介を通じた関係性を構築
- (3) 相互学習としての症例報告等の研修会開催（2回/年）

4. 専門性の高い糖尿病治療に加え在宅生活を見据えた診療とケア

- (1) 病院特徴となるべく高齢者の糖尿病治療として在宅生活を見据えた診療とケアの確立

5. 内部連携の強化・推進

- (1) 総合病院も含め術前・術後の血糖コントロール支援の定着化

(2)他科との柔軟な連携の推進

緩和ケア内科〈いづろ今村病院〉

シームレスな緩和ケア利用の相談から入院受け入れ、退院後の在宅支援を維持する。
内外部とのスムーズな連携体制の構築を目指す。

1. 入院の受け入れから退院後の在宅支援までのシームレスな体制を維持する

- (1)在宅支援として訪問診療の継続
- (2)後任医師の確保

2. 法人内はもとより、外部機関との連携によるスムーズな受け入れ体制を維持する

- (1)内部連携の推進
- (2)地域連携活動の継続
- (3)訪問系事業所との連携体制の構築

総合診療科〈いづろ今村病院〉

病病、病診連携促進に向けた総合診療体制構築を目指す。
診断困難症例への対応から終末期医療まで幅広い総合診療医療の提供を目指す。

1. 総合診療体制の構築

- (1)ポスト、サブアキュートにおけるトリアージ機能の確立
- (2)地域医療機関への周知活動
- (3)総合診療部の運営維持

2. 総合診療の充実

- (1)外来、入院における総合診療ニーズへの対応
- (2)がん以外の終末期医療への対応

外科〈いづろ今村病院〉

病病、病診連携促進に向けた総合診療体制構築を目指す。
大腸・肛門診療体制を維持する。

1. 法人内連携の維持

- (1)今村総合病院との連携維持

2. 総合診療体制の構築

- (1)総合診療部の運営維持
- (2)地域医療機関への周知活動
- (3)ポスト、サブアキュートにおけるトリアージ機能の確立

3. 専門診療の維持

- (1)大腸・肛門診療体制の維持

婦人科〈いづろ今村病院〉

患者からの信頼性を高められるように丁寧な診療や接遇を継続する。
健診事業拡大に伴う婦人科検査への準備を行う。
婦人科診療における今村総合病院との連携体制を強化する。

1. 安心と信頼性のある診療の維持・拡大

- (1)内部他科との連携体制による柔軟な診療体制の維持
- (2)健診事業における婦人科検査への貢献

2. 内部連携の維持・拡大

- (1)今村総合病院婦人科との連携体制維持・拡大

皮膚科〈いづろ今村病院〉

地域診療所との連携体制による入院ニーズへの対応など病診連携構築を目指す。
難治性皮膚潰瘍など新たな皮膚診療への体制を構築する。

1. 外部皮膚科との連携体制の構築

- (1)入院治療が必要な患者の受け入れによる診療所支援体制の構築

2. 院内他科との連携体制の構築

- (1)他科皮膚疾患診療ニーズへの対応

3. 難治性皮膚潰瘍治療ニーズへの対応

- (1)うつ滞性潰瘍等の診療体制の構築

放射線科〈いづろ今村病院〉

画像診断の質向上に向けた技師の育成に努める。
画像撮影、診断における病診連携の拡大をすすめる。

1. 画像診断力の向上、放射線技師の育成支援

- (1)研修会等への参加によるスキルアップ

2. 法人内・外との画像連携の推進

- (1)連携先診療所支援として、画像撮影・診断支援体制の拡大

3. 健診事業拡大に向けた体制整備

- (1)健診事業拡大への対応：2024年度～

健康管理センター〈いづろ今村病院〉

健診者に改善という結果が出せるよう行動変容を促す健診を目指す。
受け入れ体制の拡充に向けハード面での見直しとソフト面の向上を目指す。

1. 健診事業の質向上及び受け入れ拡大を目指す

- (1)産業医事業の検討と展開
- (2)サービスの質の向上として、保健指導の改善、フォローアップの充実、個別対応を充実させる
- (3)ハードの見直し：2024年度までに

2. 健診を受ける企業に健康経営の支援を行う

- (1)企業経営支援として、健診及び健康指導などの教育を産業医と連携して実施する。

3. 各職種の専門性向上

- (1)職種毎の専門性の向上に努める。

精神科〈谷山病院・奄美病院・徳之島病院〉

【谷山病院】

多様な精神救急への対応や災害対応の役割を担い、地域に不可欠な病院としての役割を果たす。

人事育成の観点においても協力型研修病院として研修医と専攻医を受け入れ、地域医療の向上に寄与する。

【奄美病院】

奄美の精神科中核病院としての地域ニーズに合わせた診療体制の継続（病床再編及び地域生活支援）

【徳之島病院】

離島（南三島）精神科医療病院として患者さんのニーズに合った診療を心掛ける。

1. 医療体制

- (1)精神科救急の地域拠点病院として多様な精神救急への対応（谷山）
- (2)奄美の精神科中核病院として断らない診療体制の継続（奄美）
- (3)離島（南三島）の精神科医療に邁進する（徳之島）

2. 災害対応

- (1)DPAT 2 チームの維持：2024年度まで（谷山）
- (2)DPAT 3 チーム体制の構築：2025年度～（谷山）
- (3)有事における対応力強化（奄美）
- (4)災害時における対応力強化（徳之島）

3. 人材育成

- (1)協力型研修病院として研修医と専攻医の受け入れ（谷山）
- (2)協力型研修病院として研修医の受け入れ（奄美）
- (3)精神保健指定医取得支援（奄美）
- (4)パラメディカルの地元養成に努める（徳之島）

4. 認知症対応

- (1)認知症疾患医療センターの継続と充実（谷山・奄美）

5. その他

- (1)喜界島における巡回診療の継続（奄美）
- (2)児童相談所及び愛の浜園への医師派遣継続（奄美）
- (3)沖永良部島・与論島巡回診療相談の継続（徳之島）
- (4)障害者施設（徳州園）への配置医の継続（徳之島）

新年度新規事業紹介

● 慈愛会在宅支援部 発足 ●

2022年4月1日 笹貫訪問看護ステーション愛の街は、介護老人保健施設愛と結の街グループより独立し「慈愛会在宅診療部」として新たなスタートを切りました。笹貫訪問看護ステーションは、2013年3月、介護老人保健施設愛と結の街グループとなり現在の小原町へ移転し、地域に根差した訪問看護を展開してきました。2019年8月、在宅支援を含めた地域包括ケアシステムを基盤に更なる地域との連携強化を図るため、谷山病院の精神科訪問看護と統合し、一般・精神の訪問看護ステーションとなりました。統合したことで、訪問看護件数も増加し、24時間在宅でも安心して暮らせる体制ができました。又、2021年1月1日からは泉町にサテライト設立し、訪問エリア拡大と業務効率化を図っています。

今回、慈愛会在宅支援部として、まずは訪問看護ステーションを独立することで、人材育成はもとより法人内外の事業所との更なる連携が図れることを目指しています。

診療報酬改定でも在宅部門における見直しがあり、2040年を見据えた医療のあり様が大きく変化する時期にきています。地域包括ケアシステムを基盤に慈愛会在宅支援部が利用者とクリニック等を含めた地域事業所とのハブ機能を果たす役割を担い、住み慣れた地域でそのひとらしく生活できるよう支援し、将来的には、地域にとって必要な医療機能を提供していく事業所となれるよう取り組んでいきたいと思ひます。

慈愛会在宅支援部長 中 蘭 明子
(谷山病院看護部長／精神科病院統括看護部長)

● 永年勤続者表彰の新設 ●

永年勤続者の労をねぎらい、感謝の意を込め表彰する制度が導入されます。

2021年8月より事務長会にて、コロナ禍においても職員の方々がバーンアウトしない法人の取り組み、40年働いていただく新たな仕組み作りが必要と考え検討を重ねてまいりました。法人運営に貢献された先輩方を大切にする組織風土を醸成することで、帰属意識の向上、早期離職防止(組織に大切にされている感覚)、更にはリクルート(当法人で働きたい気持ち)等に繋がれると思ひし導入するものです。

毎年4月1日時点で、勤続年数が10年、20年、30年、40年に達した職員(嘱託・パート職員等を含む)を対象に、表彰状のほか右記の通り表彰し、永年の功績に敬意を表します。

勤続年数	雇用形態	表彰金の額	リフレッシュ休暇
10年	常 勤 職 員		1日
	パート職員等		1日
20年	常 勤 職 員	10,000円	1日
	パート職員等	5,000円	1日
30年	常 勤 職 員	30,000円	2日
	パート職員等	15,000円	2日
40年	常 勤 職 員	50,000円	3日
	パート職員等	25,000円	3日

法人事業本部 経営企画室長 内田 良慶

● 臨床看護教員の病院配置 ●

2022年度より、今村総合病院に初めて「臨床看護教員」(*)が配属されます。

※臨床看護教員とは…

看護学校教員資格を持ち、臨床の経験と看護学校の教育経験を生かし、臨床に配属し、基礎教育と臨床教育をつないでいく役割を担うもの。

「臨床看護教員」の主な業務

- ・看護学生支援…実習しやすい環境づくり、臨地実習困難時の看護学校と連携した実習の工夫、学校の講義一部担当、等
- ・実習指導者支援…臨床指導に関わる看護師の教育力向上への支援、指導上の課題を抱える学生への支援にかかる連携、等
- ・卒後支援…新人看護師支援(リアリティショック対策等)、看護研究支援、離島病院の新人看護師教育支援、等

今後新興感染症等の影響により、臨床での実習を満足して経験できない学生が職場に配置され、卒業時の習得レベルに差があると、新入職者の不安や緊張の高まりによるリアリティショックを生じることが予測されます。また、新人教育にかなりの時間を要することも懸念されます。慈愛会の強みを生かし、臨床と学校が一体化して看護の実践・教育・研究面で連携することにより、看護ケアと看護教育の質の向上を図るとともに、両者の機能の一層の向上を図っていきます。

法人事業本部 統括看護部長/看護部支援室長/教育開発センター長 木佐貴 涼子

かごしま慈愛会ジャーナルの刊行に寄せて



かごしま慈愛会ジャーナル編集委員長
今村総合病院副院長 外科・消化器外科主任部長

上之園 芳一

昨年開催された第1回慈愛会学会を機に、このたび学会誌として「かごしま慈愛会ジャーナル」を発刊する運びとなりました。

本誌では、慈愛会学会で優秀演題として受賞された発表をまとめていただき記録として残す事と、それ以外でも医療全般に貢献する論文、事例報告等を掲載する方針としました。創刊号では、かごしまオハナクリニックの林恒存院長を筆頭に、第1回慈愛会学会で優秀演題に選ばれた10編の論文と、「新型コロナウイルス感染症下における病院経営」、「災害トリアージ演習の看護教育」など、直近の話題も含めた多職種からの専門性の高い12編の論文を掲載しました。慈愛会グループの各施設は、急性期医療、専門医療をはじめ精神科医療、在宅医療、介護老人保健、看護教育と多岐にわたっています。慈愛会の中で、実際にどんな医療が提供されているのかを知るには、とても良い情報源となると思います。日常の業務でお忙しい中でご執筆いただきました筆頭著者の方々、企画・構成・編集にご協力いただきました職員の方々には、心より御礼申し上げます。

「かごしま慈愛会ジャーナル」創刊号として内容の濃い、慈愛会らしい充実した学会誌になったと思います。是非、コーヒーでも飲みながら、ご一読いただけますと幸いです。

慈愛会学会運営委員会より

第2回学術集会『過去から学び、飛躍する慈愛会』

慈愛会学会 第2回学術集会を2022年7月9日(土)に開催いたします。これまで75演題(口演24、ポスター発表51)の応募がありました。今回のテーマに込めた「慈愛会の歴史から学び、慈愛会が未来に向かって飛躍するきっかけとなる」ことを期待して講演やシンポジウム、発表など企画しております。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

【会場変更のお知らせ】

皆様のご要望により多くの職員の方々にご参加いただくためにオンライン参加が可能な環境設備のある鹿児島県市町村自治会館(鹿児島市鴨池新町7-4)へ会場を変更いたします。
ご来場の際、お間違えのないようよろしくお願いいたします。



法人事業本部 看護部支援室・教育開発センターより

心に届く慈愛の物語を紡ぐ会

2022年5月14日(土)、かごしま県民交流センター(鹿児島市山下町14-50)にて「第3回 心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」を開催いたします。慈愛会で様々な職員と患者さん利用者の方々との織りなす日常の物語を語り理解しあい、今後につなげていく取り組みです。

今年度は看護職や精神福祉士、事務職から51作品のエピソードが寄せられました。1次選考会を経て2022年4月8日の2次選考会にて入選作品を決定いたしました。入選された13名の皆様おめでとうございます。
入選された作品と作者をご紹介します。



4月8日の選考会の様子

「余命二か月を告知された患者との関わり」	谷山病院 田中 聖将
「行動・心理症状を整える看護 ～人的環境として感情記憶に働きかける関わり～」	谷山病院 池澤 真代
「桜の咲く季節」	いづろ今村病院 平石 敬美
「日記」	奄美病院 松下 理絵
「コロナと戦う美しき戦士たち -コロナ鬼は外、福は内-」	谷山病院 宮崎須美子
「ワンピースで初心を思い出す」	愛と結の街 徳田めぐみ
「今できることを大切に」	愛と結の街 中村真由美
「私を助けてくれたAさんの言葉」	愛と結の街 加納 美紀
「笑顔をありがとう」	愛と結の街 宮田 強
「生きたい気持ちに寄り添うことの大切さ」	今村総合病院 林 真香
「看取りの看護」	今村総合病院 吉森みゆき
「患者を家族と思い寄り添う看護」	今村総合病院 野元 海輝
「忘れられない出来事」	愛と結の街 川崎 友義

13作品の中から最優秀作品、優秀作品が選ばれます。

選考委員長三角みづ紀先生(詩人、鹿児島市出身)より、心に届く慈愛の物語を紡ぐ会当日5月14日に開催会場で発表いたします。三角みづ紀先生の選評、心に届く慈愛の物語に触れる機会を楽しみに皆様のご来場を心よりお待ちしております。

法人事業本部 総務人事課より

「投資教育」はじめます！ 一動画で学ぶ退職金運用一

慈愛会の企業型確定拠出年金(企業型DC)対象者向けに、投資信託の最近の動向や投信選びのアドバイスを伝える動画コンテンツができました(鹿児島銀行地域支援部DC担当 制作)。

QRコードで気軽にアクセス！
退職金運用のコツを学びましょう。

<https://www.pip-maker.com/?view=1jhj>



【主な内容】

- ・2021年における投資信託の実績
- ・投資信託のリスクについて
- ・2022年1月から2月にかけての投資信託の値動き

ウクライナ情勢により投信の値動きにも影響が出ています。最近の動向を、ぜひ動画でチェックしてみてください。

本誌では今後も「動画で学ぶ退職金運用」シリーズをご紹介します。



鹿中看2年課程(通信制) 16年の歴史に幕

— 准看護師から看護師への移行教育に終止符 —



2年課程(通信制)を支えた教員・職員の皆さん

鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)看護科は本年度修了の第15期生を送り出したのち、本年3月末を以て閉課程となりました。平成18(2006)年の開設からこれまで、働きながら看護師免許取得を目指す准看護師2,402名が入学。2年間の厳しい学業を成し遂げた修了生が2,282名、そして、総計2,110名が晴れて看護師免許を取得しました。

本課程は16年にわたり准看護師から看護師への移行教育を続けてきましたが、入学対象となる准看護師数は減少の一途をたどり、また、准看護師の過半数が50歳超という年齢構成の変化等を鑑み、2020年度の入学生を最後に、学生募集を停止していました。今後の南九州における准看護師の看護通信教育、面接授業、臨地病院見学実習等は、香川県の穴吹医療大学校看護学科通信課程に継承されます。

鹿児島中央看護専門学校では引き続き3年課程(1学年定員40名)が質の高い看護実践能力をもつ看護師養成に尽力していきます。

鹿中看2年課程(通信制)のOG/OBが慈愛会各施設で多数活躍しています。代表して第1期生お2人に、閉課程に寄せてコメントをいただきました。



人生で最も学習し必死だった日々



谷山病院 副看護部長 生見 千鶴

18歳から准看護師で働き、40歳で鹿児島中央看護専門学校2年課程通信制に入学し、看護師の道を目指しました。

第1期生の私は、頼る先輩もおらず未知の世界で右往左往し、先生に泣きついたこともあり。若い時とは違い、居眠りもせずに授業を受け、わかった！覚えた！と思っても再び忘れ本を開くことを繰り返しながら、人生で最も学習し必死でした。ようやく迎えた国家試験の壮行会では「やっとここまでたどり着いた」と安堵し、涙したことを思い出します。難関の看護師国家試験に合格！卒業して10数年たった今でもあの合格の喜びを忘れることはありません。

今は管理職の道に足を踏み入れて、職員の育成に奮闘している日々です。

学校がいよいよ閉課程と聞き、とても寂しい思いがあります。看護師としての今の自分があるのも、先生や同期生に支えていただいたおかげだと感謝しています。

病院の支援 仲間との交流 家族の支え 通信制で学べたことに感謝



奄美病院 看護部長 富地 幸代

看護師資格を取得して看護にあたらなくては、真の看護が出来ないとの思いから、鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)へ入学しました。免許を取得して早14年が経ちますが、当時を振り返り沢山の思い出が浮かびます。

1期生として何もかも手探り状態で、EBMに基づいた看護を叩き込まれました。

奄美大島からの登校は体力・仕事と家庭・学業・交通費・時間軸との調整と大変でした。国家試験前日には、食事の影響とプレッシャーもあり体調を崩しましたが、なんとか回復して受験できました。

病院の支援体制・仲間との交流・家族の支えのおかげで今の私がいます。

目的を持って前進する事、ぶれない軸、人と人との繋がりを大切に通信制で学べた事に感謝致します。

新入職員の皆さん 慈愛会へようこそ

公益財団法人慈愛会の第73期入職式が2022年4月1日、法人事業本部をホスト会場としてオンライン開催されました。新卒94人、既卒19人の計113人が配属先の各病院施設で式に臨みました。

今村英仁理事長は式辞で、昭和9年の創設からもうすぐ90年を迎える慈愛会の歴史や、「慈愛会マインド＝『あすなろの精神』『亀の一步』」のフレーズを紹介し「皆さんがこれから成長しキャリアアップを図っていかれることを期待します。

たとえ困難にぶつかっても決してあきらめずに前進し続けてください」と新入職員を激励しました。

本誌面では、今春社会人としての第一歩を踏み出した新卒新入職員94人の配属先、職種、お名前をご紹介します。



第73期新卒新入職員

(省略)



蝶観察の達人

いづろ今村病院循環器内科 部長

木佐貫 彰 先生



蝶との出会いは高校からです。20歳から50歳までは医学・診療に専念し、50歳以後に蝶の採集・観察を再開しました。鹿児島昆虫同好会に入り、採集先で出会った人達と友達になり、蝶仲間が増えました。図鑑、雑誌、HP、仲間などから情報収集します。

日本に約250種、鹿児島県にその約半分の蝶がいます。成虫の発生は年に1回のもものと数回のもものがあり、発生時期は種により様々です。成虫の活動時間も日の出、昼間、夕方など様々です。変温動物なので活動を休止する冬をどのように過ごすのかが大切です。卵、幼虫、蛹、成虫と越冬する形態は種により様々です。春以後食樹(草)とする植物の新芽、花、果実などの柔らかい食べ物がある時期に合わせて幼虫になるようです。旬の美味しいものを食べて成長できるように越冬形態を変化させているように見えます。以上のように依存する植物を変えることにより海岸から高山まで幅広く生息し、成虫の発生時期・活動時間などを変えることも加わって棲み分けているように見えます。太古から続く世代を繰り返すための多様な仕組みに触れることで自分に新たな気づきが生まれ、蝶の観察は楽しいです。

写真撮影も楽しいです。蝶は翅(はね)を閉じてとまることが多いですが翅を開く(S1)、花に来る(S2, 3)、交尾(S4)、産卵などの瞬間を見逃さないようにします。飛翔している蝶の求愛飛翔(S5)、縄張り争い(S6)など面白い行動の撮影にも挑戦します。診療に支障のない範囲で楽しみたいと思います。



S1 エゾミドリシジミ オス



S2 タイワンツバメシジミ メス



S3 ツムムラサキマダラ オス



S4 ゴイシジミ オス(左)・メス(右)



S5 メスグロヒョウモン オス(右)・メス(左)



S6 リュウキュウムラサキ オス(左)・メス(右)



【徳之島病院の取り組み】



チーム力を高め「お互いさま」と思える職場風土作りの一環として、毎朝ミーティング後にフィロソフィを朗読し、一日がスタートします。朗読者は日報で確認後、その日の心境や職場の雰囲気によって項目を選択し、メッセージ性を込めて朗読している事が多く、相槌を打つなど集中して聴き、経験談や感想を語る事も多々あります。

限られた人員で知恵を絞り、気力・体力を維持しながらの患者対応は容易ではありません。対人関係においても様々な葛藤を抱えながら、日々自分の立ち位置で精一杯頑張っています。フィロソフィを共有し「今日も一日頑張ろう」「身が引き締まる」「視点を変えるきっかけとなった」など、振り返りの大切な時間となっています。

徳之島病院 療養病棟 看護師長 鷺坂 のとみ

自らが燃えるような炎となる



「『心を燃やせ』と『人は心が原動力だから』ってセリフが好きだな」。ある日、車内で8歳になる息子と某人気アニメの好きなセリフについて話しました。「僕も好き」と息子も頷き、「だから習い事や勉強を頑張るんだ」と嬉しそうに話してくれました。

慈愛会フィロソフィの第6項に「自ら燃える」とあります。この話をした時に、「自分は、このアニメのキャラクターのように、心を燃やして仕事をしているのか？」という疑問が出てきました。やっているつもり、出来ているつもりになっていないか、日々自問自答しています。自らが燃えるような炎となり、患者様の楽しさや生きがい、火がつく作業を提供していきたいと思います。

徳之島病院 リハビリ室 作業療法士 古田 真悟

冊子抜粋

第6項 自ら燃える

物には可燃性、不燃性、自然性のものがあるように、人間のタイプにも火を近付けると燃え上がる可燃性の人、火を近付けても燃えない不燃性の人、自分で力強く燃え上がる自然性の人があります。

何かを成し遂げようとする人は、自ら燃える情熱を持たなければなりません。高校野球では、心から野球の好きな若者達が、甲子園という大きな目標を目指し、一丸となって活き活きと練習に励んでいます。その姿には、未来への可能性とエネルギーな躍動が感じられます。彼らは自ら燃える自然性の集団なのです。

自ら燃えるためには、自分のしていることを好きになると同時に、明確な目標をもつことが必要です。

在宅医療

リレーエッセー

7

在宅ですごしたい思いを支えて

いづる今村病院 総合外来看護師 里之園 美佐代

(所属は執筆当時、4月より高麗町クリニックへ異動)

いづる今村病院・緩和ケアチームのリンクスタッフの一員として外来に勤務しています。緩和外来に通院中の患者様・ご家族のサポート、入院支援、訪問診療の同行などが現在の主な役割です。緩和の訪問診療は2020年6月から外来看護師が同行する事になり、今まで多くの自宅や施設へ訪問させていただきました。

その中で、A氏とは緩和の面談から関わりました。面談時より本人・家族とも在宅希望がありましたが独居であることが問題でした。はじめのうちは、自分のペースで何とか生活出来ていましたが、症状の悪化のため入院となってしまいました。それでも在宅で過ごしたいという本人の思いを尊重し、住環境を整え自宅退院へつなぐ事が出来ました。訪問診療の際、驚くほど表情も良く、「家に帰ってこれて本当に良かった」と涙を流し喜んでいました。思いに寄り添う事ができ、在宅での様子を自身の目でみる事ができ、私自身も嬉しかったです。最期は病院で看取りましたが、独居でも多方面の支援があれば自宅で過ごす事が出来るという事例でした。

患者・家族の尊厳を守りつつ、病気の進行による心や体のつらさを理解し、最期までその人らしい療養生活を送ることができるよう、今後も他職種と連携しながら、更に充実した緩和ケアを提供出来るようにとめてまいりたいと思います。



緩和ケア内科の松下格司主任部長と一緒に

(省 略)

編 集 後 記

本誌の表紙と記事に取り上げていただきましたが、鹿児島中央看護専門学校2年課程（通信制）看護科は令和4年3月31日をもって閉課程となりました。このタイミングで編集後記の担当が回ってきたことにも不思議な縁を感じます。

私は通信制の初年度から16年間、事務担当として学生の皆さんをサポートしてまいりました。その間2,282名の修了生が巣立っていきました。ある時、修了生のお一人から、修了式後にお手紙を頂いたことがありました。そこには「事務の方々は縁の下の力持ちのような存在です。沢山の事務処理をして、いつも陰ながら支えて頂き有難うございました」と記されていました。この手紙を読んだ時「自分たちの仕事をちゃんと見てくれている人がいるのだ」と、とても感動したのを覚えています。

さて、慈愛会にも4月1日に94名の方が入職されました。医療人もある意味「縁の下の力持ち」と言えるのではないのでしょうか。コロナ禍が続く慣れない事も多いと思いますが、フレッシュな皆様のごこれからのご活躍を楽しみにしています。

鹿児島中央看護専門学校 事務 濱下 千浪

達人
Professional

慈愛会報 [プロフェッショナル]
2022年4月 Vol.28

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional 編集委員会

委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室

duties-support-room@jiaikai.jp

TEL 099-256-0311 内線 2042



公益財団法人 慈 愛 会
<https://www.jiaikai.or.jp/>